

香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館訪問記

3大学連携でラーニング・コモンズと学習支援を調査

平成24年3月、金沢大学、静岡大学、名古屋大学の3大学図書館の連携事業の一環で、香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館におけるラーニング・コモンズの整備状況と学習支援の現状についての調査を行いました。

訪問したのは、香港科技大、香港大、香港城市大（以上香港）、南洋理工大、シンガポール国立大（以上シンガポール）、モナシユ大、ディーキン大、ビクトリア大、マツコーリー大、シドニー工科大、シドニー大（以上オーストラリア）の11大学で、本学からは、橋（香港・シンガポール）と池上（オーストラリア）が参加しました。その概要を報告します。なお、香港・シンガポールの調査には、山田政寛大学教育開発・支援センター准教授が同行しました。

香港・シンガポール編

今回訪問した香港とシンガポールの大学は、本学が目指す「東アジアの知の拠点」と言っても良い大学ばかりでした（訪問した5大学は、QSアジア大学ランキング2012の1,2,3,12,17位。金大は77位）。

大学制度の変革期にある香港の大学では、どの館でも大規模なラーニング・コモンズを整備中でした。シンガポールの大学では、館内のPC数に圧倒されました。どちらも資源の少ない、面積の小さい国・地域ということで、高等教育の充実における大学全体としての熱意を感じました。



香港城市大学

当然、どの館でも学習支援を重視していました。各学問分野に対応した文献利用についての講習会を頻繁に開催し、Webでも対面でもサポートを行っていました。それらをコーディネートするのがサブジェクト・ライブラリアンです。主題知識が豊富で学部と連携した教育を担当する図書館員。この存在が大学図書館における学習支援充実のポイントと感じました。

どの大学もグローバル化に対応しており、キャンパスでは英語中心のコミュニケーションが自然に行われていました。これは、近未来の日本の大学の目指す姿だったのかもしれませんが。



南洋理工大学図書館

（情報企画課専門職員 橋 洋平）

オーストラリア編

オーストラリアの図書館では、サブジェクト・ライブラリアンなどと呼ばれる専門の図書館職員が中心となり、図書館運営・サービスの提供が行われています。サブジェクト・ライブラリアンは各分野の

専門知識を有しているため、教員からの信頼も厚く、学部と密接に連携した学習支援が行われています。

ラーニング・コモンズについては、特別な場所を設けるという日本の大学図書館の傾向に対し、オーストラリアでは図書館全体がラーニング・コモンズを意識した空間となっています。館内には様々なタイプの部屋、机や椅子（ビーズクッションも）が配置され、そこでは、学生が自らの学習スタイルに合った環境を柔軟に選択できるようになっています。また、ラーニング・サポートの窓口なども設置されており、図書館は、単なる学習の場ではなく、人や様々な情報が集まる“ハブ（HUB）”としての機能を持つことが目指されています。



マツコーリー大学

また、スチューデント・ローバー（Student Rover）と呼ばれる学生が、図書館業務のサポートをしている大学もあります。彼らはボランティアではなく雇用されており、利用案内や資料の検索補助、ITサポート等を行っています。

オーストラリアの大学では、図書館は学習に必須の場所として存在していました。今後、金沢大学附属図書館が大学内で欠かせない場所となるために、訪問で得た先進的な取り組みを参考に、図書館を成長させていかなければならないと実感しました。



シドニー大学図書館

（情報サービス課医学系分館係 池上 佳芳里）

*調査報告書は近日中にインターネットで公開します。

この連携事業は、「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」に発展し、6月21日に協定の締結を行いました。